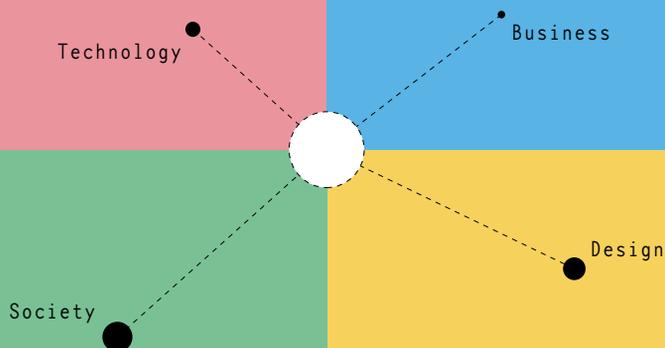


後藤滋樹

ごとう・しげき: 早稲田大学 理
工学部 情報学科教授。MINC
理事、APAN副議長などアジ
ア太平洋のインターネット界で
活躍している。

goto@goto.info.waseda.ac.jp



伏線と前兆

推理小説と伏線

よくできた推理小説では、いたるところに伏線が敷いてある。福永教授の書斎の描写がいやに詳しいと思うと、そこで密室殺人事件が起こる。女優の絹子が左利きであることが食事の描写で強調されていると、それが解決の糸口になる。登場人物の食事の好みに言及してあれば、いかにも怪しい。

映画でも同じことだ。親子連れが動物園でライオンを見て楽しんでいる。ライオンがどう猛なことを親が説明している。その檻のところで夜になってからアクションが繰り広げられる。活劇の舞台はすでにおなじみなのだ。そこにライオンが嘯みついてくる。

小説を読む場合でも、映画を見る場合でも、伏線のところで何か怪しいと感じた読者・観客は、あとになって当たれば痛快だ。このように読者の心理をくすぐる作品は評判が高い。

多くのことを同時に理解するのは難しい

推理小説では、事件が起こった現場の状況を詳しく述べなければならぬ。しかし事件のあとに詳細に述べることにすると、小説というよりは記録帳のようになってしまう。重要な人物や部屋のようすは、事件の前の平穩なうちに伏線としてさりげなくエピソードの形で紹介しておくほうが構成が楽である。

映画も同じだ。いざアクションの場面が始まってから動物園の檻の配置や、猛獣の性質を解説するのは教育番組のようになってしまう。観客に息もつかせぬアクション画面のはずなのに、その最中に主役に説明をさせたのでは一息ついてしまう。

このように考えてみると、新規の事物を一気に記述するのは難しいことがわかる。少しずつ小出しに伏線として出しておくべきなのだ。それは記述しにくいということもあるけれども、結局のところ、人間が新しい事物を一気には理解できないということだと思ふ。

推理小説や映画以外でも、新しいことは小出しされる。たとえば、ある数学の本では一冊を費やして1つの定理の証明を述べている。このような場合に、目標の定理が述べてあって、あとは証明が何百ページも続くかという、そうではない。いろいろな補助的な概念の定義があったり、補題として小出しに結果が説明されていたりする。

ビジョンを語ろう

人間が新しいことを一気に理解するのが難しいとする、私たちは多くの物ごとを見落としているかもしれない。個々の事件としては認識していても、その重要性を理解できないまま見過ごしている恐れがある。

逆にいうと、多くの人が理解できないことは社会的な意味が小さいことになる。歴史の転換のような社会的な大変動は、同時代の多くの人が理解するはずだ。大きな変化は徐々に小出しに起こるのだらうと予想がつく。歴史の転機になるような事件は一瞬のうちに起きても、実際に世の中が変革されるまでには長い時間がかかるという意味だ。

そう考えると、明治維新において実質の内容が整備されるには何年も必要だったし、また江戸時代の末期には維新後に成果が発揮されるような萌芽もあつたはずだ。産業革命を年表で見ると、きっちり何年に起こつたというような表記は得られない。

現在の私たちは、今までと同じことを反復しようとしてもできない時代に生きている。これは歴史の転換点というものに違いない。そのわりには、未来への展望が見えてこない。推理小説で伏線を見抜く人、映画で予兆に気がつく人には見えているのかもしれない。そういう人はぜひ未来のビジョンを語るべきだ。伏線を小出しにしてもらわないと理解ができないのだから。

インターネットは時代の前兆か

私にも未来が見えているわけではない。ここは当たるも八卦という乗りで、ヒントになりそうなことを並べてみる。インターネットは以前から存在しているが、多くの人が使うようになったのは最近だ。つまり社会的な意義が生じたのは新しい。インターネットは新しい時代にも引き継がれるものだろう。

ただし現在のインターネットの利用方法は、以前から知られていたコンピュータの使用法の域を出していない。ウェブも従来のハイパーテキスト技術だ。ウェブでは通信の利用方向がおもにサーバーからクライアントへの通信となる。これではインターネットの特徴である双方向性が生かされない。

インターネットを使って、今までにできなかったことが実現できるようになれば、本当に歴史が変わるはずだ。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp